

### 第3回地球環境専門部会・地下圏微生物専門部会議事録

日時：2004年3月3日（水）13：00-18：00

場所：海洋科学技術センター東京連絡所

出席者

**地球環境専門部会委員**：多田隆治（東京大学；専門部会長）、伊藤 孝（茨城大；ESSEP 委員），大河内直彦（JAMSTEC/IFREE；ESSEP 委員），長谷川 卓（金沢大；ESSEP 委員），林田 明（同志社大；ESSEP 委員），保柳康一（信州大），松田博貴（熊本大）

**地下圏微生物専門部会委員**：北里 洋（JAMSTEC/IFREE；専門部会長），青木和弘（核燃料サイクル開発機構），鈴木 聡（愛媛大），高井 研（JAMSTEC/SUGAR），山本啓之（JAMSTEC/MEED；ESSEP 委員）

**オブザーバー**：小玉一人（高知大；ESSEP 委員），石橋純一郎（九州大；ESSEP 委員），難波謙二（東京大；SciMP 委員），斎藤実篤（コンソーシアム IODP 部会長補佐），巽 好幸，加藤憲二，井龍康文，荒井晃作（以上，コンソーシアム IODP 部会執行部），江口暢久（SAS オフィス），倉本真一，青池 寛（以上，JAMSTEC/CDEX），木川栄一（JAMSTEC/OD21）

**事務局（AESTO）**：山川 稔（科学掘削推進部長）

#### 報告事項

##### 1. IODP についての最近の流れ

SciMP Nagasaki 会議報告（斎藤・倉本）—配布資料に基づき，特に IODP 出版計画，microbiology 研究に関する船上マニュアルの作成，IODP expedition, holes の呼称法などについての紹介があった。

SSEPs Boulder 会議報告（大河内） Working groups での検討事項、特に conflict of interest に関する議論についての紹介があった。

IO 会議報告（倉本）—HSE Policy, 人的交換, コアキュレーション, minimum measurement, drilling までの日程の周知, Expedition name などについての報告があった。

ILP 会議報告（青木）—日米欧それぞれからの委員の人数構成, ILP によるプロポーザルの独自ランキングの動き, 鉱区対策, メタンハイドレート・微生物資源に対する対応についての紹介があった。特に現時点では, 掘削予定地点が鉱区にかかっている場合, プロポネントが個別にその対応にあたりと想定されている旨, 確認された。

SSP 会議報告（保柳）—従来行われていた readiness ranking の取り扱いについて紹介があった。

##### 2. IODP 掘削における深海環境保存について（山本・北里）

最近活発な動きがある海洋域における Environmental Protection に関する紹介があった。今後、

IODP 計画遂行にあたり、非常に大きな問題となる可能性大との認識で一致し、早急に委員会を設置し、対策を協議することとなった。委員は、山本・高井・北里・松田・倉本および地球内部部会からの一人からなる。(3月6日に開催された地球内部部会において、小原氏が推薦された)

### 審議事項

乗船研究者の募集・推薦への部会対応について(斎藤・荒井) —最近、募集・推薦を行った Juan de Fuca 航海, Loma(o?)nosov Ridge 航海における応募・選定状況についての紹介があった。また、新しいコミュニティーを取り込みつつも、戦略的なパッケージとしてチームを推薦できるような体制を作る必要がある。Cochief が既に決まっている場合は、部会は、cochief の意向を尊重しつつ、乗船候補者にランク付けを行なう。また、cochief が日本から出ない場合は、部会は、その航海に関して戦略を立て、必要に応じて cochief 格の乗船研究者を指名し、その研究者を中心に候補者のランク付けを行うことが確認された。

「日本の科学戦略」について(巽) —日本語版、英語版、web 公開版それぞれの準備状況についての説明があった。

乗船研究者へのガイダンスについて(マニュアル作成について)(多田) —特に担当者を決めず、航海開始後に乗船経験を蓄積していく旨、確認された。

### 第3回 地球環境専門部会

#### 1. 次回 SSEPs Granada 会議について(多田)

SSEPs Granada 会議の出席確認—当日出席の ESSEP メンバーは全員、参加可能との確認がなされた。

Rating への対応について—SSEPs 会議の主目的はプロポーザルの nurturing であることを認識し、Rating を行う場合には quality と maturity の二軸を区別した上で行う旨、確認された。

#### 2. 主席研究員の推薦について(多田)

当面の研究航海における主席研究員の推薦依頼が来ている。配布資料を参考に、各自メールにより主席研究員の推薦案を提示することとなった。